



株式会社アルバス



■会社概要	会社名	株式会社 アルバス	店舗名	ALBUS アルバス
	所在地	810-0023 福岡県福岡市中央区警固2丁目9-14		
	代表者	代表取締役 ポーデ咲帆（酒井咲帆）		
	従業員	18名（いふくまち保育園を含む）		
	設立	2009年4月21日		
	資本金	500万円		
	主要取引先	富士フィルム株式会社 / 株式会社ナニワ商会 / 株式会社 ハイタイドなど		
	取引先銀行	福岡銀行 けやき通り支店 筑邦銀行 福岡営業部		
	面積	延床面積 38坪（内17坪 / プリントラボと写真スタジオ）		
	アクセス	地下鉄空港線 赤坂駅徒歩10分 / 警固本通沿い 筑紫女学園付近		
基本方針	<ul style="list-style-type: none">・地域創造の場をつくり、積極的にまちづくりに関わる・写真現像やプリントなど、これまで築いてきた文化を伝え、できるだけ長く残せるように努める・子どもたちの原風景を豊かにしていく			
営業時間	11:30-17:00（水・木・金曜定休・年末年始休み・お盆休み）			

■事業内容	写真現像・プリント
	フィルム現像、写真プリント、アルバム制作、年賀状作成など
	販売業務
	写真関連商材（フィルム・アルバムなど）、ステーションナリー、書籍（写真集・絵本など）、その他雑貨の販売、保育用品の販売など
	撮影・編集・デザイン
	出張撮影、スタジオ撮影、学校撮影、結婚撮影、証明写真・オーディション写真、その他の撮影（雑誌取材、イベント撮影）、グラフィックデザイン、編集業務など
企画・運営	
展覧会、イベント・ワークショップなどの企画・運営、スクールの運営など	
保育園運営	
いふくまち保育園、ごしょがだに保育園の運営、保育環境の提案	

■連絡先 〒810-0023 福岡県福岡市中央区警固2丁目9-14 TEL 092-791-9335 FAX 092-791-9336 MAIL info@albus.in

ALBUS（アルバス）とは

アルバムの語源。白い（石灰）という意味も含む。おそらく、大昔のまだペンもノートもなかった頃、誰かが意思を持って、石で洞窟や壁に書き記したその行為が、時間を重ね「記録する」という意味に置き換わり、それが『アルバム』という言葉を生んだ。

その物語を会社名『株式会社アルバス』に。

私たちが記す物語もまちに記録・記憶されていくように、という意味を携えている。

撮る、残していく、未来に

今を生きる子どもたち、いつかおじいちゃんおばあちゃんになって、
孫に自分の写真を見せるときどんな話しをするだろう。

残された1枚の写真が歴史を伝え、現在へとつなげてくれる。

写真とはプリントされた紙のことを指すだけではなく、

写真に流れている時間や記憶をそう呼ぶのではないかと捉えています。

そんな「写真」を伝えていくための写真屋として「ALBUS（アルバス）」は生まれました。

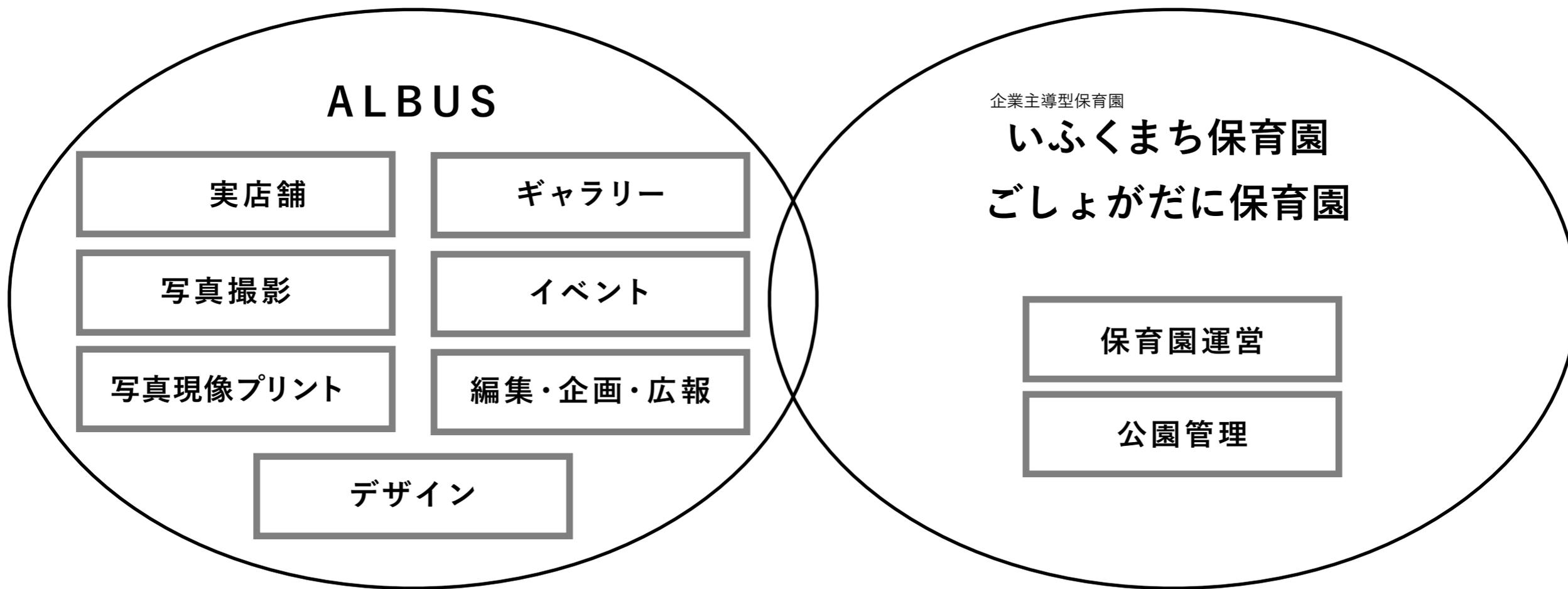
「いいこと」が「もっといいこと」になっていく。

それを考え形にした人も、それを受け取った人も、
さらにその周りにいる人にも「いいこと」が循環して、
世の中が育ち合っていく。

それまで全く関係がないように思えたものが、自分との関係に気が付いた時の発見は、
創造的な新たなフェーズへと進みます。

ALBUSはその関係を繋ぎ、一緒に冒険する存在でありたいと思っています。

みなさんと共に、日々の暮らしと、未来の社会に、
成熟した豊かな環境を創ることがALBUSの仕事です。



今後、活動していく予定のこと

産前・産後ケア／里親／障害者福祉／就労支援／介護など

1. 場をひらく

写真館では、人が集まる仕掛けを生み出し、スクール、イベント、ワークショップなどを企画して、お客さんと一緒に楽しむ、学ぶ、育つことを意識しています。社内で働くスタッフもまた、その一員であることに喜びを感じています。

2. 関係を育む

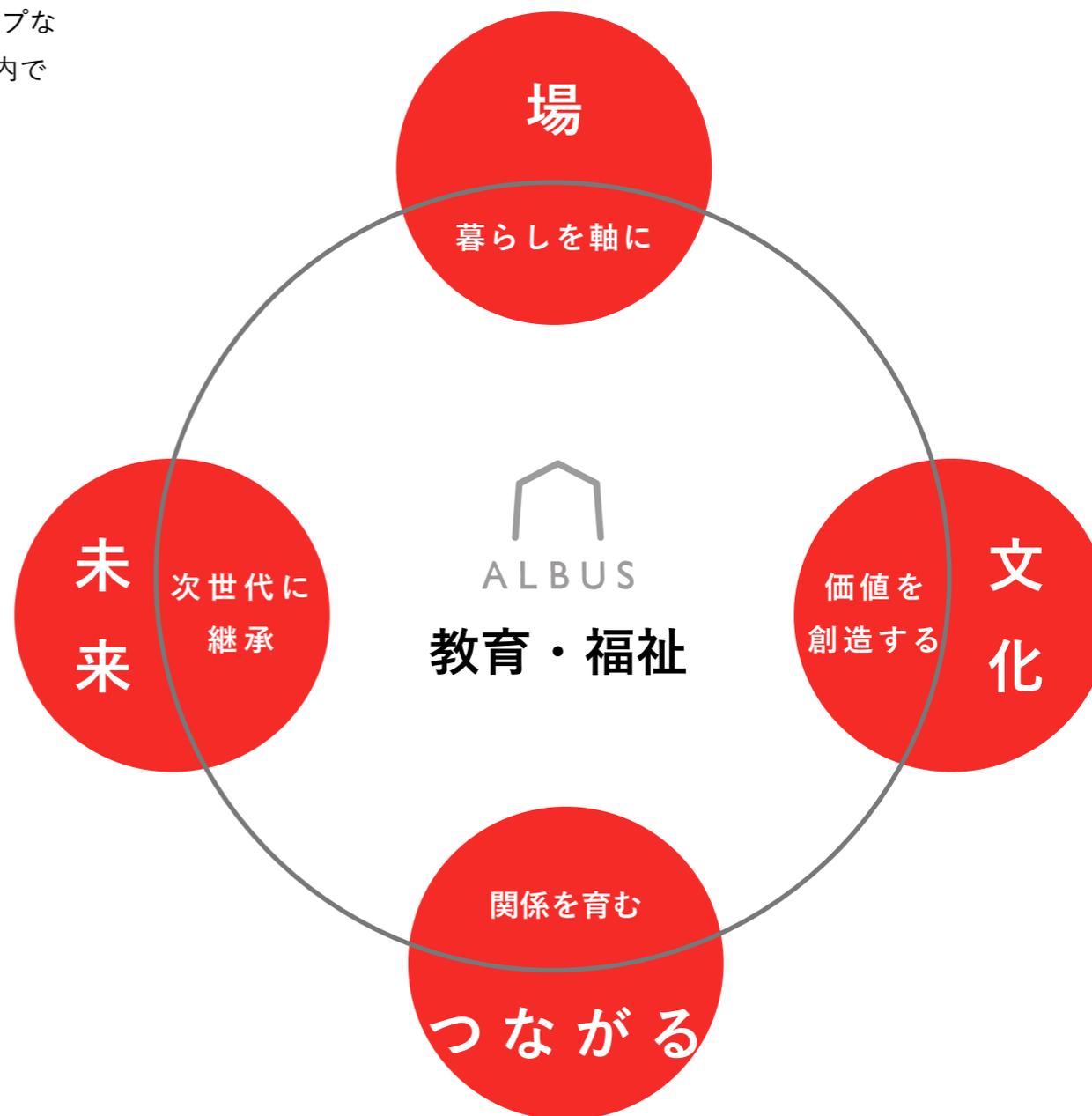
写真館も保育園も、その場をひらくことで、人をつなぎ、地域をつなぎます。保育園では隣にある古小鳥公園を管理することで、さらに地域を豊かにする知恵を創造しながら、そこに住む人々と一緒にまちを作っていきます。

3. 文化を創造する

家族の時間（家族撮影）という価値、展覧会などにおける表現の価値、記憶を記録する写真そのものの価値などを文化として発信します。見えない付加価値を、心に残せるように、日々生きる価値を大切に考えながら活動しています。

4. 教育・福祉を中心に考える

これまでの活動と培った考え方を軸に、教育、福祉を中心に捉えながら新たな事業を行なっていきます。業界全体の考え方を見直すような気持ちで、いいことをもっとよく、違和感があることは問い直せるような力をつけ、私たちの未来を、教育や福祉でよりよくしていきます。



1. 場所をひらく

人とまちにつながり文化や経済が交流する拠点となるスペース。使い手によってALBUSは変化します。

1F



写真の現像・プリント・雑貨の販売。プリントは好みの色味をオーダーすることができる



ギャラリーとして展示・販売ができるスペースをレンタルしている。作品展示、販売：ジョージ・ネルソン



スペースをシェアしているレストラン「トレネ」
飲食ができ、イベントや催しも開催されています

2F



トークイベント：写真家・西山勲



ワークショップ：画家・つつみひかる



ポップアップショップ：うなぎの寝床

2. 関係を育む

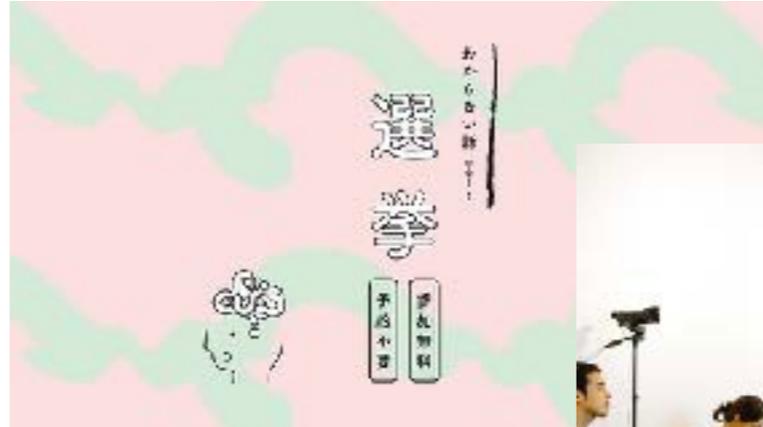
人や地域をつなぎ、必要としていることを一緒に生み出していくことを大切にします。

例えば、子どもに店長になってもらう企画や（計100名以上が体験）、選挙前の学び合い、写真スクール、何度も訪れてくれる家族撮影など

子ども店長



わからない話『選挙って何?』



「選挙がわからない」というスタッフの意見をもとに、選挙について話し合う会を催した。現役の新聞記者など、多様な方々が集まる場となった。



子どもが店長になり、写真屋を体験。まちに出かけて撮影したものを自分でプリントしたりする。

写真スクール



撮影の仕方は人それぞれ、「写真がもっとうまくなりたい!」というスタッフの声を聞いて、習ってみたい講師を呼んで、お客さんを集めてスクールを企画。大人になっても学びに終わりは無い。

家族撮影



10年を超える運営の間に、毎年撮影を楽しみにしてくれている家族もいる。その成長を共に感じながら、家族の時間を優しく見守るように撮影を行う。その関係は撮影を超え、お互いの日々の暮らしにつながっている。

3. 文化を創造する

企業の価値を伝えるための企画、編集、写真撮影、家族の時間（家族撮影）という価値、展覧会における表現の価値、記憶を記録する写真そのものの価値などを文化として発信します。

写真撮影



まちの1年間の様子を撮影。行政の広報誌やHPなどに使用。：福岡市那珂川町（現在 那珂川市）

展覧会で表現



絵本作家のミロコマチコさんや、写真家のホンマタカシさんの展覧会を開催。大好きな作家の作品に間近で触れ、企画から展示までできることに感動した。文化を肌で感じる事ができた。

家族撮影&プロダクト



家族撮影やウエディング撮影などを行い、そのツールまでデザインしている。大切な時間を撮影し、生み出し、手に渡るまで全ての工程を自分たちで行う。

4. 教育・福祉を中心に考える

保育園をまちにひらき、隣にある公園管理をして、積極的に地域とのつながりを生み出しています。



公園の看板をオリジナルで制作



区役所から任され、公園を管理している。
公園の清掃は毎日行ない、
定期的にイベントなども開催している。

面白いお客さんが日々来園する保育園

間伐材を山まで選びに行って使用した園内



ビー玉ころがし
Have a fun!



落語家保育士の
ソネス屋マンディ



オランダから
コッポッターズ

